



海外ホームステイ交流派遣事業では延べ14人を派遣。国際感覚豊かな人材を育てています。

●入学準備金貸付制度
高校・大学などへ進学する生徒の保護者へ、入学準備金を無利子で貸付けます。平成28年度からスタートした事業で、市内企業からの寄付金と「安曇野ふるさと寄付」を財源としています。

●広島平和記念式典参加事業
過去に起きた戦争の悲惨さを知

●英語課外授業
グローバル化する国際社会に対応できる人材を育成するため、国際感覚を養い、英会話能力の向上を図る事業を実施しています。具体的には、中学校の放課後を利用した外国人講師による課外授業の開催、また、平成26年度からは、オーストラリア・メルボルン市に中学生を派遣する海外ホームステイ交流派遣事業を実施しています。

●コミュニティスクール事業
地域の皆さんがこれまで以上に学校に足を運んでいただく機会を

●電子黒板整備
情報通信技術（ICT）を学校の教育現場でも活用し、分かりやすい授業や情報教育を推進するため、平成29年度に電子黒板126台を中学校に導入しました。導入後の効果検証を行い、小学校への導入を検討します。

●小中学校の耐震化などの整備
安全で快適な学校づくりに取り組むため、避難所となる屋内運動場の非構造部材の耐震化工事などに取り組んでいます。また、本年度から市内で最も古い穂高南小学校の長寿化改良工事を行っています。

創出しています。また、中学校ごとの地域教育協議会で、どのような子どもたちを育てていくのかという学校運営の目標や願い、課題を地域の皆さんに理解していただき、「地域とともにつくる学校、地域に根差した魅力ある学校」を目指しています。

市の主な教育施策

子どもたちにより良い教育環境を

人と文化を育むまちグループ



寶さん、辻さん、風間さん

【提言の一例】 図書館を多くの人に利用してもらうため、色々な種類のパンフレットの作成、学校の勉強に合わせた資料を増やしてほしいです。

【回答要旨】 市の小中学生を対象とした調査では、図書館を「毎日使う」から「月に1回ぐらい」という人が約30%という結果で、もう少し利用者を増やしたいと考えています。図書館では、年代別の「おすすめブックリスト」を作成しています。このリストの小中学校への配布や、図書館だよりの小中学生版の作成も考えています。また、公共図書館から学校の図書館に本を届ける事業もしているので、勉強に合わせた資料として活用をしてほしいと思います。

協働によるまちづくりグループ



切久保さん、森川さん、内田さん

【提言の一例】 自家用車がなくても、お年寄りから子どもまで、それぞれの地域に行くことのできるバスなどの公共交通を整備してもらいたいです。

【回答要旨】 市の世帯当たりの自家用車保有台数は県内19市でも高い位置を占めています。デマンド型乗合タクシー「あづみん」は年間約9万人が利用しているものの、利便性などの課題も多い状況です。「あづみん」は運行開始から10年を迎えたこともあり、利便性の向上と安定した運行を継続するため、見直しを進めます。

環境にやさしいまちグループ



武田さん、待井さん、神谷さん

【提言の一例】 安曇野の地下水の課題は、豊富な水量を維持できていないことだと思います。豊科北中では、生徒会活動として節水シールを貼っています。「ここ30年で地下水が205億リットルも減っています」と記載したシールを作成し、各家庭などで貼ってもらってはでしょうか。

【回答要旨】 シールの作成と配布は、節水を促す効果が高いと考えられ、大変貴重な提案です。導入を研究します。市では、平成25年に「地下水保全・涵養及び適正利用に関する条例」を施行し、平成29年に「水環境基本計画」と「行動計画」を策定しました。今後、幅広い世代の皆さんに、地下水資源の価値、地下水を守る取り組みなどを発信していきます。

豊かな人を育むまちづくり

これからの時代を担う子どもたちの育成は、まちづくりの基本です。また、少子高齢化の進展など、社会が急速な変化を遂げている現在、教育環境の整備がますます重要性を増しているといえます。市では、「豊かな人を育むまちづくり」を市政の大きな柱に掲げ、さまざまな施策に取り組んでいます。安曇野に誇りと愛着を持ち、地域を守り育てる人材を育成できるよう、市民の皆さまや関係機関と連携しながら、共に子どもたちを育ててまいります。

安曇野市長 宮澤 宗弘

